

## プロフィール

ロンドンに生まれたウルク・アジズ氏は、英領マラヤで初・中等教育を受け、シンガポールのラッフルズ・カレッジ、マラヤ大学で経済学を修了。その間、第二次大戦中には日本に留学。1952年から同大の講師となり、1961年にはマレー人として最初の教授に任ぜられ、経済学科長、経済・行政学部長を歴任。1968年には、これもマレーシア人として建学後初めての学長（正式には副総長で、総長は当時のラーマン首相）となり、高等教育のマレー語化政策や日本研究科設立、アジア諸国との学術交流などを推進、20年にわたってマラヤ大学のみならず、マレーシアひいてはアセアンの教育、学術の全般的な発展の先頭に立って尽力してきた。

独立後まもないマレーシアにおいて根本的な問題であった貧困を経済学の面から取り上げ、貧困経済研究の先駆をなしたアジズ氏は、農村開発、農業と土地制度などさまざまな分野に関する著作を発表、なかでも『マラヤにおけるエステート（大規模農園）細分化：1951-60』は、脱植民地化過程のなかでの実証的なデータの収集に基づいた労作として高く評価されている。マレーシア経済学会の設立に携わり、その会長を務めるなど、60年代以降のマレーシア経済学界を常に先導するとともに、その合理的、人道的アプローチに基づいて、協同組合運動、イスラム巡礼基金を始めとする数多くのプロジェクトを生み出し、実践的な経済学者として、単なるアカデミズムの域を越えて多方面で業績をあげている。学界だけへのインパクトにとどまらず、言語政策、産業政策、高等教育、人材開発、運輸など社会に密着した分野についても多くの提言を行う同氏は、アジア極東経済委員会、ユネスコ、国連食糧農業機構等、国際機関での要職も数多く歴任、現在も幅広い活躍を続けて、アジア諸国独自の発展に貢献している。

### 主な著作

『マレー経済における事実と誤謬』シンガポール、1957

『経済計画と貧困』シンガポール、1959

『クラン住宅供給調査』（共著）1962 『マラヤにおけるエステート細分化：1951-60』1962

『時の砂浜の足跡』1975 『協同組合の原理』1980

『マレーシアにおける高等教育と雇用』（共編）1987

『マレーシアにおける大学教育と雇用』パリ、1987

（出版地のないものはクアラルンプールにて出版）